

当院における時間外検査の TAT 短縮に向けた取り組み

◎河合 裕子¹⁾、高橋 真奈美¹⁾、仁科 正樹¹⁾、中島 美由紀¹⁾
独立行政法人 国立病院機構 豊橋医療センター¹⁾

〈はじめに〉

時間外検査は、検査データを判断する幅広い知識と測定機器のスムーズな操作、エラー発生時の対応と多くの知識と技術が望まれる。緊急検体の測定結果は異常値やパニック値が打ち出されることが少なくないため、正確かつ迅速に報告することを常に念頭に置き、業務に従事することが必要である。

そこで今回、日当直業務に携わる技師の Turn Around Time(以下 TAT)アンケート調査を試みたので報告する。

〈対象及び方法〉

日当直業務に従事している技師 11 名を対象とし、現在時間外検査で最も多い検査セットの流れについて、フローチャート形式のアンケート調査を行った。また各分野での再検対象の条件や機器操作性、エラーフラグ対応などの時間外検査で不安に感じている事項の記載を加えた。アンケート提出後、各技師の実働を検査システム(A&T 社)の TAT 機能を使用しアンケート内容と比較解析した。

〈結果〉

アンケート結果から、検体到着前の機器の立ち上げ準備、到着確認後の検体測定順番に差が見られた。検体凝固させるための放置時間にも差があった。再検対象条件は現在検査科内で明確な基準が無い事もあり、統一性がみられなかった。生化学の希釈再検、感染症陽性処理、採血取り直し判断、機器の測定エラー発生時の処理などに不安や疑問があった。アンケート調査と実働 TAT では最大 10 分程度差があった。

〈考察〉

今回の調査から、TAT の短い技師と長い技師

の差の原因が明確となり、疑問や不安となる要因も解った。今後、データ判読力向上、SOP の見直し、再検基準の作成、機器操作やエラーフラグ対応の研修を企画し、技師間差のない報告体制を整備することが TAT 短縮と、質の高い医療に貢献できると考える。

豊橋医療センター 臨床検査科 河合裕子
(0532) 62-0301 (内線 2233)